

2026年 AUTUMN YA通信

『YA通信』は、和光市図書館の中高生向け情報を
3・6・9・12月の年4回発信している情報誌です。



YAとは、Young Adult(ヤングアダルト)の略称で、中学・高校生を中心とした10代の「子どもでも大人でもない世代」を指した〈若い大人〉という意味を持ちます。

『児童書だと幼すぎるし、一般書だと難しくて読む気にならない…』そんな世代に向けて今話題の本や、進学・職業に関する本、ライトノベルなどを集めた〈YAコーナー〉があります。自分だけの一冊を探しに、図書館に来てみてください。

本館

新しいコーナーを設置しました！

YA コーナーのマンガを移動し、新たに「マンガコーナー」として設置をしました。

場所はカウンター横の棚です。YA 世代向けのマンガだけでなく、大人の方向けのマンガもあります。

また、和光高校から寄贈いただいたマンガ 4 タイトルを受入しました。

貸出を希望される方はマンガコーナーまたはカウンターにてお申し出ください。

漫画を置いていたコーナーには、中高生の将来に役立つ、職業や進路にまつわる資料を集めた「職業・進路コーナー」を設置しました。

中高生の悩みに応える資料などのミニ展示も行いますので、ぜひご利用ください。

和光高校寄贈マンガ

- 📖 『殷周伝説～太公望伝奇～』(全 12 巻) ※マンガコーナー
横山 光輝//著 講談社
- 📖 『君に届け』(全30巻) ※マンガコーナー
椎名 軽穂//著 集英社
- 📖 『おおきく振りかぶって』(既刊 38 巻) ※カウンター
ひぐち アサ//著 講談社
- 📖 『リアル』(既刊 16 巻) ※カウンター
井上 雄彦//著 集英社

※未完結マンガは、例外的な所蔵になります。以降、続刊の購入は年に一度まとめて行います。



マンガコーナー(左写真)
職業・進学コーナー
(右写真)は
こんな感じ！





自動運転講座 を実施しました！



7月18日(土)、講座「自動運転ってなんだ？東大と夏の自由研究に取り組もう！」が開催されました。科学コミュニケーターの本田隆行氏をお招きし、午前中が小学生の部、午後は中高生以上の部の2部構成で行われました。講師・東大生と一緒に「自動運転」について意見やアイデアを出し合い、30年後の未来を想像するなど、とても活気のある講座となりました。



参加したことにより、「自動運転」をより身近に感じたという感想が多くみられました。

市民図書館講座（中高生対象）

「迷いが自信に変わる！ファッション&パーソナルカラー講座」を実施しました！

色彩プロデューサーでイメージ&ブランディングコンサルティング'pepocolon'主宰の松田薫氏を講師にお招きし、パーソナルカラーやTPOにあった服装について学びました。「パーソナルカラー」の仕組みや、色の明るさ・鮮やかさによって印象が変わることを教わり、色選びの基本を知りました。後半には、TPOにあった服選びをテーマに「なぜ場所、季節にあった服選びが必要なのか」について学び、「相手のことを思いやって服を選ぶ」大切さを教わりました。



色のチップを使って、色のグループ分けをする実技もしました。

色による印象の違いを学び、簡易パーソナルカラー診断もしてもらいました。



「これからの服装選びが楽しみになった」「色の組み合わせやTPOによるファッションで自分の雰囲気が変わっていくのが興味深かった」などの感想がありました。



オススメの一冊

1

本館のオススメ本

『日曜日の文芸クラブ』

小手鞠 るい // 作 講談社

資料コード:12150246(本館) 52020111 (分館)

分類:Y816

読書好きな人の中には、書くことに興味があるという方も少なくないと思います。

作家の小手鞠るいさんが、詩・日記・感想文・小説の書き方について、自身の創作の手法を紹介したりおもしろい作品を例にあげたりしながら、やさしい言葉で導いてくれるのがこの『日曜日の文芸クラブ』。読むことと書くことが大好きだという著者の、創作を愛する気持ちに溢れた一冊です。

書くことに挑戦してみたい人はもちろん、詩や小説が作られる過程に関心がある人にもおすすめです。



2

本館のオススメ本

『学校を休んだ日は本をひらいて』

清 繭子 // 作 主婦と生活社

資料コード:12152267(本館) 52021406(分館)

分類:Y371

さまざまな経歴・職業の著名人11名が、自身の不登校の経験、学校に対する考え方、悩んだ時に心の支えになった読書について、インタビュー形式で語った本書。

“登校できず不安を感じている子どもたちを安心させるブックガイドを作ろう”と企画されたそうですが、本の紹介だけではなく、学校や読書や生き方に関する十人十色の価値観に触れることが出来る一冊になっています。学校を休んだ日だけでなく、ちょっと悩んだ時や疲れた時に手に取ってみると、自分にぴったりの本や考え方と出会えるかもしれません。



『消えたモナ・リザ』

ニコラス デイ // 作 千葉 茂樹 // 訳 小学館

資料コード:12150207(本館) 52020587(分館)

分類:Y720

ルーブル美術館所蔵の有名絵画といえば、レオナルド・ダ・ヴィンチが描いた「モナ・リザ」を思い浮かべる人は多いでしょう。その昔「モナ・リザ」が盗まれた事件があったのはご存じですか。世界一有名な絵画「モナ・リザ」は実はこの大事件をきっかけに有名になっていきました。

誰がなぜどのようにして名画を盗んだのか。盗難事件の捜査がすすんでいくと共に、ダ・ヴィンチの生涯も描かれています。「モナ・リザ」の行方を追うミステリー小説のようなノンフィクションをお楽しみください。



『この世は生きる価値がある』

長谷川 まりる // 作 ポプラ社

資料コード:12150375(本館) 52020133(分館)

分類:Y913

主人公は、天上から降りてきた「魂」。中学2年生男子の体に飛び込み、1年間だけ、中学の卒業式まで高梨天山として生きることになります。見ること、食べること、体を動かすこと、すべてが初めて。「痛い」という感覚すら新鮮です。しかし、人と交わるうちに、どうしようもない苦しい気持ちにも襲われるように…。

皆と一緒に受験はしたけれど、高校に行くことはできません。刻一刻とタイムリミットが迫ってきます。

「まだ生き足りない」そう思った「魂」は決意します。

タイトルは硬い印象ですが、ストーリーはめくるめく青春エンターテインメントです。

